



質問 屋内で小さな子どもが遊べる場所を作ってはどうか。
答弁 小さな子どもを対象とした屋内施設の整備予定はないが、市民交流プラザ「トワーレ」など小さな子どもが遊べるスペースがある施設をたくさん使っていただきたい。



質問 登下校を見守る人へリボンを配ったり、交流会を開催したりしてはどうか。
答弁 登下校の見守りは、明るい色の帽子などを着用して活動している。リボンを付けることも方法の一つとして、関係する皆さんと考えていきたい。



質問 通学路や大きな道路から先に補修してはどうか。
答弁 通学路や大きな道路は随時補修しているが、早急に対応できていない場合がある。今後も道路パトロールを行いながら、通報などがあれば速やかに補修を行いたい。



質問 運動施設の使用料を安くしたり、割引券を配布したりしてはどうか。
答弁 クラブや部活動で使用する場合は使用料を減免している。また、個人で使用する場合は使用料が安い施設の活用も検討してほしい。



質問 食品ロスを減らすため、市の食材を使った料理レシピを紹介してはどうか。
答弁 食品ロスを減らすには「余すことなく調理し食べきる」ことが重要であるため、食べ物を残さない取り組みを周知していきたい。



質問 各小学校や町内会から代表者が集まり防災について話し合う機会をつくってはどうか。
答弁 作成中のハザードマップ配布の際に、災害時の対応などをお知らせするとともに、皆さんと意見交換したい。



質問 子どもがいる人の残業や夜間の仕事を減らしたり、無くしたりしてはどうか。
答弁 仕事以外の時間も大切にしながら働く「ワーク・ライフ・バランス」という考え方を皆さんに周知し、働きやすい環境づくりを進めている。



質問 防犯カメラを各家庭に設置してはどうか。
答弁 各家庭に防犯カメラが設置されれば犯罪抑止に強い効果が期待されるが、費用や維持管理などの課題があり難しい。公共施設や通学路などへの設置に取り組みたい。



質問 病院や店などが少ない地区に病院や店を置いてはどうか。
答弁 市では、車での移動支援や、家に医師が訪問するなどの取り組みをしている。高齢者が過ごしやすい取り組みを継続していきたい。



質問 各家庭に反射材を配ったり反射材の着用を呼び掛けるポスターを作ったりしてはどうか。
答弁 毎年、高齢者世帯へは反射材を配布している。また、県の反射材の着用を呼び掛けるポスターを用いて広くPRし、反射材の着用の普及に努めている。



質問 横断歩道にガードレールと横断旗を設置してはどうか。
答弁 ガードレールは町内会などの要望の中から必要性が高いと判断した場所に設置している。横断旗は劣化が早いなど課題が多いため、現在は見守り活動を中心に取り組んでいる。



質問 官庁街通りの歩道を自転車走れる所と歩行者が歩く所を色で区別してはどうか。
答弁 官庁街通りの歩道は、ブロックで区別されているがあまり知られていないことから、自転車走行のルールも含めて皆さんに周知していきたい。



質問 市内の交差点を信号機を使わず、交通事故の起こりにくい環状交差点に変えてみてはどうか。
答弁 今後、環状交差点に変えることができる交差点があるかを、警察など関係する皆さんと一緒に考えていきたい。



質問 空き地を田畑として利用してはどうか。
答弁 農家の高齢化や減少で活用されない田畑が増えてきている。まずは、農業をする人を増やしながら、使われていない田畑の活用につなげていきたい。



質問 安全に安心して暮らすため、外灯の数を増やし、防犯カメラを設置してはどうか。
答弁 町内会などの意見を聞き、防犯灯などを毎年増設している。防犯カメラについては今後も警察署などと連携して取り組んでいきたい。

- ※ 1～3番：北園小学校
- 4～8番：三本木小学校
- 9～11番：南小学校
- 12～13番：東小学校
- 14～19番：ちとせ小学校

皆さんは知っていましたか？

4番 一條結愛さんの質問にある官庁街通りの歩道は、自転車が走る所と歩行者が歩く所がブロックで区別されています。



交通ルールを守って通行しましょう。



▲ 子ども議会終了後、当選証書を手に記念撮影(小山山市長(中央)、西村副市長(中央左)、丸井教育長(中央右))



質問 障害者の雇用に関するセミナーを開催してはどうか。
答弁 企業の皆さんとの意見交換会を利用して障害者雇用に関するセミナーを開催し、障害者の働く場所と笑顔が増えるよう、協力しながら取り組んでいきたい。



質問 若い人を増やすため、大学の新設や、起業した人への支援をしてはどうか。
答弁 新たな事業を始める場合の支援制度については、充実に努めている。北里大学生など若い人が住み続けられるまちづくりを進めていきたい。



質問 「市民あいさつデー」を作り、市民みんなであいさつ運動をしてはどうか。
答弁 「市民あいさつデー」も効果的だと思うが、できれば市民一人一人が毎日の生活の中で自然にあいさつを交わすことを期待している。



質問 地区に貸し出し用の車を置いてはどうか。
答弁 維持管理の面などで難しいが、多くの公共施設に車いすを備えているほか、購入費用の助成など車いすを使いやすい環境づくりに努めている。



十和田市の未来をともに考え、ともに創る

昨年12月25日、令和初となる「とわだ子ども議会」が新たな市議会議場で開催されました。

これは、子どもたちが議会を模擬体験することで、議会や市役所の仕組みを学び、質問を通して市について考え、郷土を愛する心を育むことを目的に、平成25年から行っているもので、今回で7回目となります。

今年度は市内の小学6年生19人が子ども議員となり、勉強会で議会や市役所の仕組みを学んだほか、議長の市ノ渡惇人くん(ちとせ小)と副議長の宮内希実さん(三本木小)による議事進行の下、市政に対する質問を行いました。

子どもたちの十和田市をよくしたいという思いが込められた質問に対して、小山田市長や丸井教育長が丁寧に答えると、子ども議員は市の取り組みや考え方を学ぼうと熱心に耳を傾けていました。

緊張しながらも、堂々とした態度で質問する子ども議員からは、まじぶくりに積極的に参加していきこうとする思いがひしひしと伝わってきました。

市では、子ども議会で提案された意見をまじぶくりに反映させるように努めていきます。